

平成29年度第2回埼玉県公共事業評価監視委員会 会議要旨

1 再評価実施事業の審議

① 202 道路改築事業 主要地方道さいたま菖蒲線（原市平塚工区）

委員：用地進捗率から、未買収地は残り少なくなっているようだが、残っているところは用地交渉が難航しているところなのか、それとも順番で買収した結果、残っているところなのか？

事業課：多少難航しているところが残っている。

委員：予定期間の中で、解決できそうか。

事業課：とても難しいという状況ではない。粘り強く交渉を重ねて、期間内に買収できると考えている。

委員：慢性的な交通渋滞がある地域なので計画どおり進めてほしい。

事業課：事業完了に向けて、事業の進捗に努めていく。

委員：この地域の人口は増えているのか。

事業課：上尾市の人口は微増している。

委員：これから人口減少の時代になる。道路整備は、地域の人口減少に対して、効果的に働くものがあると思うがどうか。

事業課：道路ができるとその沿道に企業が進出し、雇用の場ができるなどの効果が見込まれる。このため、人口の増加にも寄与するものと考えている。

○対応方針（案）について

会長：継続とする対応方針案でよろしいか。また附帯する意見も無しでよろしいか。

委員：異議なし。

② 203 道路改築事業 主要地方道越谷野田線（松伏西工区）

委員：事業開始から10年が経ち、事業進捗率は26%だが、事業期間内に終わるのか？

事業課：構造物の橋があるのと、用地が未買収のところもあるため、進捗率は上がっていないが、事業期間内に終わるよう努めていく。

委員：当該工区の先の破線箇所は、どのような状況か。

事業課：計画決定はしているが未着手箇所である。

委員：破線箇所ができれば、当該箇所の便益も更に上がると思う。破線箇所は、この事業が終了した後、着手するのか。

事業課：破線箇所は、この事業（松伏西工区）が完成するまでに、進めるか検討していく。

委員：越谷野田線は越谷市から野田市をつなぐ重要な道路である。地権者の問題などで、なかなか進まない所もあると思うが、引き続き進めてもらいたい。

事業課：東埼玉道路の延伸工事が進められていることもあり、重要性は認識している。引き続き努力していく。

○対応方針（案）について

会長：継続とする対応方針案でよろしいか。また附帯する意見も無しでよろしいか。

委員：異議なし。

③ 204 道路改築事業 一般県道幸手境線

委員：茨城県の施工区間の事業期間は。

事業課：歩調を合わせて平成34年としている。

委員：埼玉県側も茨城県側もその期間で終わるのか。

事業課：茨城県側の方が用地買収も進んでおり問題は無いと聞いている。

委員：道路整備促進期成同盟会から早期完成の要望を受けているとのことだが、どのような組織なのか。

事業課：埼玉県幸手市と茨城県五霞町の首長や議会の方ほか、地域の団体の方がメンバーとなっている。

委員：現地調査の際にも確認したが、改めて確認したい。橋を造ることによって、集中豪雨の時に川の流れを阻害するようなことはないのか。

事業課：河川構造令に基づき整備を行っており、問題は無い。

○対応方針（案）について

会長：継続とする対応方針案でよろしいか。また附帯する意見も無しでよろしいか。

委員：異議なし。

④ 205 街路整備事業 都市計画道路草加三郷線（柳島工区）

委員：費用対効果の便益及び費用が、前回の再評価時と比べて上がっている理由はなにか。

事業課：費用対効果の計算上、便益については、評価時点から供用開始するまでの期間が再評価時点に比べて短くなっているため上がっている。

また、費用については、再評価時点に比べて事業期間を3年延伸したことにより上がっている。

委員：現地視察したが、非常に渋滞している。周辺住民の生活への影響もあるので、早く整備してほしい。

事業課：水路の付け替え工事もあり、時間はかかるが、1日でも早く完成させたい。

委員：コスト縮減として再生砕石の利用と書かれているが、何か工夫した点はあるのか。

事業課：路盤材やアスファルト合材に再生材を使用している。

委員：再生材を利用するのは一般的ではないのか。

事業課：工事箇所周辺に再生材を供給するプラントがない場合は、再生材を使用しないで工事を行うこととなる。全ての工事で再生材を使用しているわけではないので、コスト縮減になると考えている。

○対応方針（案）について

会長：継続とする対応方針案でよろしいか。また附帯する意見も無しでよろしいか。

委員：異議なし。

⑤ 301 都市公園事業 さきたま古墳公園

委員：行田市にとって観光資源にしていきたい場所かと思う。最近の公園整備については、現存の自然を残すことが主流となっている。今後の整備では、人工的なものだけでなく、自然地を残すような工夫があった方がよい。

事業課：今回の整備区域は、都市計画決定されている広大な区域の一部であり、周辺には十分な自然がある。今後の整備の参考としたい。

委員：人工的なものを整備するだけでなく、自然を残しつつ、人が集まるよう整備をしていくという趣旨でよいか。

事業課：自然に見えても手を入れている場所もある他、街や郊外でも整備手法が変わってくるため、適材適所見極めて整備をしていきたい。

委員：圏央道もつながり、埼玉県の交通の便もよくなっている。うまくPRをして、県外からも人が呼び込めるようにしてもらいたい。

委員：評価方法の違いでB/Cが大きく変わっているとのことだが、前回の方法で評価するとどうなるのか。

事業課：前回の方法で評価すると、同程度になった。

委員：評価方法はどう変わったのか。

事業課：改訂後の計算手法では、全体の供用開始から50年後までの便益が含まれるようになった。このため、費用の増加に対して便益の増加が顕著となっている。

○対応方針（案）について

会長：継続とする対応方針案でよろしいか。また附帯する意見も無しでよろしいか。

委員：異議なし。

2 事後評価実施事業の報告

① 1001 ほ場整備事業 種足野通川地区

委員：排水路について、コンクリートの2面張りではなくて、もっと自然を残すようなものにできないか。そうすることにより便益が大きくなると思う。

事業課：維持管理や効率性を考慮し、小さい断面でコンクリートの2面張りのものを整備した。他の地区の断面の大きな水路では、自然的なかごマットで整備し、環境に配慮しているところもある。

委員：この地域では標準区画を30aではなく1haとしている理由は。

事業課：大型の機械を使用した大規模経営を可能となるように、地元と調整し決定した。

委員：小規模の区画の方はどうするのか。

事業課：全部が1haの区画ではなくて、端の方に小さい区画も用意してある。

委員：耕作放棄をしているところは、どれくらいあるのか。

事業課：整備前、休耕地は50ha程度あったが、整備後はない。

委員：水稲だけが増えていて、他の作物が減っている理由は。

事業課：区画や道幅が広がり、水稲が作りやすくなった。また、農林水産省が飼料米を推奨しており、そのため水稲が増えている。

委員：田んぼや畑の近くで子供が自然に触れ合うことの副次的な効果を狙ったようなものはあるのか。

事業課：今回のほ場整備は生産性を狙ったものであるが、他の地区ではビオトープエリアを整備しているところもある。

委員：制度上、生態系に配慮した整備は可能なのか。

事業課：制度上は可能である。土地改良法にも環境の配慮がうたわれている。ただし、費用対効果とのバランスが必要となる。

② 2001 道路改築事業 一般県道岩殿観音南戸守線線(西本宿工区)

委員：3年も早く供用を開始しているのにB/Cが下がっている。供用が早くなることについて、上乘せしてB/Cを評価していくような、マニュアルの変更が必要ではないか。

事業課：マニュアルは国土交通省で作成したものを準用している。国に伝えていきたい。

委員：この路線を整備していく上で、当初想定していなかったことなど、何かあったか。

事業課：東武東上線を越える橋梁区間の上部工架設工事は、東武鉄道に施工を委託した。工事着手するまで、東武鉄道との協議に想定以上の期間を要した。そのため、供用開始が遅くなった。